

## むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 小池 拓矢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年7月分】

### 1. 実施した活動の概要・状況

今月は、日本セーフティパドルリング協会のシーカヤックのインストラクターの検定試験に合格できたため、より力を入れて川内・脇野沢地区のマリンアクティビティの振興を進めていきたい。また、地域団体の受け入れやテレビ・ラジオ・新聞等での活動のPRも積極的に行った。

（主な活動）

◇地域団体の体験学習講師

（2日：下北地域県民局 30日：市役所企画調整課 31日：鳴海道場（青森市の空手道場））

すべての体験学習のプログラムで磯の観察を行った。特に、棒と糸で作った簡単な釣り竿の先におつまみ用のイカを付けて行うカニ釣りには、大人も子供も夢中になっていた。

夏休みに入り、子供たちが体験館を訪れることも多くなってきたため、簡単に、そして何より安全に楽しめるような体験を今後も提供していきたい。



## ◇各種メディアへの取材・出演対応

(FM アジュール、東奥日報、青森放送)

かわうち・まりん・びーちの海開きとともに、活動のメディアへの露出も増えた。7月26日付の東奥日報では、地域おこし協力隊として、カヤックや SUP などのマリニアクティビティを通して、海の魅力を伝えていく活動をしていることが記載された。

新聞やテレビで活動の紹介をすることで、普段 SNS を見ない層にも活動が伝わるため、今後もプレスリリースなどを積極的に行っていきたい。



## ◇7月9日(土)、10日(日) シーカヤックインストラクター検定試験

六ヶ所村の尾駮沼で、日本セーフティーパドルリング協会のシーカヤックベーシックインストラクターの検定試験を受験し、合格した。試験では、カヤックの操縦に加えて、初心者に対するライフジャケットの装着やパドルリングの教え方、カヤックから落ちた場合の復帰なども審査された。

このような資格は、例えばマリニアクティビティを旅行業者と提携して商品化する際に、必要となる可能性もある。何より参加者に安全にカヤックを楽しんでもらうために重要であり、今後は SUP (スタンドアップパドルボード) の検定も受験する予定である。

## 2. 翌月の活動予定

8月下旬から、日本財団やむつ小川原財団の助成事業等始めるため、企画や準備等を適宜行っていく。